

# 町史

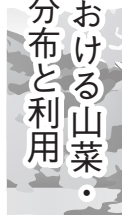
## とっておきの話

223

森林総合研究所 松浦 俊也

### 共有林はムラの財産〜只見町の共有林に学ぶ〜⑥

#### 共有林における山菜・キノコの分布と利用



#### 評価

只見町の特徴のひとつは、山菜やキノコ採りが古くから盛んなこととです。私は2008〜2010

春先から晩秋にかけてどのような種類や量の山菜・キノコが採られているか？ 世代や性別で活動に差があるか？ 町全体での経済価値の大きさは？

#### ②〈生育地・採取地の環境〉

種類により生育地や採取地の環境条件にどのような共通性や違いがあるか？

#### ③〈共有林の利用ルール〉

持続的な採取のためにどのような工夫やルールがあるか？

「報ただみ」に少しご紹介しましたが、その後をふまえた成果の概要を町民の方々に十分お伝えできていませんでした。そこで本号では、私が担当した調査結果と現在進行中の共有林の調査について簡単にご紹介します。先の調査では、森林や草地にさまざまな生き物がいることで地元の方々がどのような恵み（生態系サービス）を得ているかを定量評価することを大きな目的に、山菜・キノコ採りに着目して、つぎのような問いについて調べました。

①〈採取活動の実態把握と経済価値〉

まず①では、60〜70歳代を中心に頻繁に採取が行われ、山菜・キノコそれぞれ十数種類がよく採取されていることなどが集落全戸へのアンケート調査から分かりました。また、十数名の地元男性に2年間にわたり採取日誌をつけてもらい、採取時間・種名・重量・使途・採取場所の特徴を記録してもらいました。ここからは、時期ごとに場所を変えつつさまざまな山菜・キノコを採取していることや自家消費が多いものの近所や親戚へのおすそ分けや知人への販売も多いことなどが分かりました。さ

らに、種類ごとの採取重量と直販所などでの平均単価を掛けあわせて自家消費分を含めた経済価値を試算すると、採取時間をコストと捉えなければ、採取量がかつてより大幅に減った現在でも町全体で数千万円の潜在的な価値が毎年発生していると推計されました。

つぎに②では、只見町の植生分布、地形条件（斜面の傾き、日当たり、尾根や谷からの近さ）、道路からの近さなどをパソコンの地図上で計算し、山菜の種類ごとの生育地・採取地がどのような場所に多い傾向があるかを調べました。その結果、山菜は全般に沢沿いや雪崩地に多いものの、種類によって分布特徴に差があることや、雪解けを追って採取場所が奥山に移りゆく様子などが捉えられました。また、ゼンマイのように、林内にも細いものが散在するものの、太いものが密生する雪崩地でも多く採取されていることなども捉えられました。



みずみずしいフナハリタケ (かのした)

最後に③では、聞き取りや採取同行調査から、共有林の利用ルールとその変遷には地区ごとの違いが大きいことが分かり、別途詳しく調べることになりました。現在調査中の内容は、只見町内のいくつかの集落における過去（1960〜80年代）の植生図の復元と、当時の森林・草地の利用状況の推定です（難しそうですが、）。それらを通して、共有林の面積・地形・道路分布などの環境の違いが、集落ごとの山菜・キノコ採りのルールの違いやその変遷にどのように影響しているかを調べられないかと考えています。

上記①と②についてはいろいろ興味深い結果が得られてきていますが、本号では詳細を記すことができせん。2013年度中にはその一部についての学術論文が出版される予定ですが、これらはブナセンターなど町民の方々の目につくところに置かせていただきますので、ご覧ください。



黒谷入の雪渓沿いでゼンマイ折り